

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-16368

(43)公開日 平成5年(1993)3月2日

(51)Int.Cl.

B 42 D 15/10

識別記号

9111-2C

F I

技術表示箇所

5 2 1

9111-2C

G 06 K 19/00

8623-5L

G 06 K 19/00

W

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号

実願平3-66149

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(22)出願日

平成3年(1991)8月21日

(72)考案者 平松秀朗

東京都新宿区榎町7番地 大日本印刷株式会社内

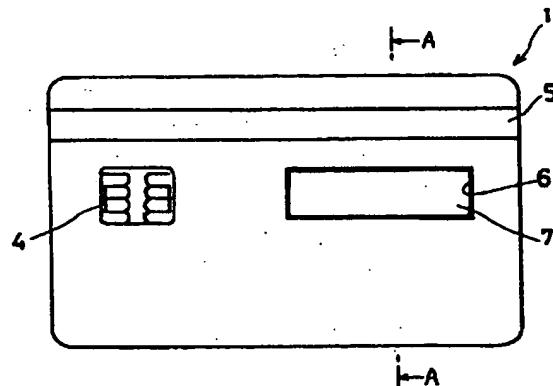
(74)代理人 弁理士 進藤純一 (外1名)

(54)【考案の名称】 情報記録用カード

(57)【要約】

【目的】 安価でしかも簡単な方法により、情報記録用カードの記録内容の一部をカード表面に表示することができるようとする。

【構成】 I Cチップ4が組み込まれるとともに磁気ストライプ5が設けられたカード1の表面に、長方形形状の凹部6を設け、この凹部6に例えば利用日や利用残高等の情報が印字されたシール7を貼り付けるようとする。このシール7の裏面には、端縁の非粘着部を除いて糊を塗布し、カード1の利用の度毎に新たな利用残高等の情報が印字されたシール7に貼り替えるようとする。



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、磁気カードやICカード等の記録内容の一部をカード表面に表示できるようにした情報記録用カードに関する。

【0002】**【従来の技術】**

昨今、プラスチックフィルムよりなる基材の表面に磁気ストライプあるいは全面磁気コーティング層を設けてなる磁気カードが、一般に広く利用されている。また、CPUおよびICメモリを有するICチップをカード内に組み込むことにより、ハイセキュリティと大容量記録を可能にしたICカードも一部において利用されている。

【0003】

ところで、上記のような各種の情報記録用カードは、利用残高などの必要な情報をカード表面に表示することができれば、利便性をより向上させることができる。このように記録内容の表示を可能としたカードとして、従来、例えばプリペイドカードの場合、テレfonカードのように利用度数に応じてカードにパンチ穴を開けるようにして大まかな利用残高を確認できるようにしたもの（パンチ穴方式）や、ハイウエイカードのように利用の度毎に利用残高をカード裏面に印字するようにしたもの（裏面印字方式）などが一般に知られており、また、例えばICカードの場合、カード表面にテンキーとディスプレイを備え、必要時に記録内容を照会可能にしたもの（ビジュアルカード）が知られている。その他、カード表面に小窓を設け、この小窓に鉄粉の磁化により数字等を表示させるようにし、カードを強く振ることによって表示を消すことができるようにしたもの（表示方式カード）もある。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

利用残高などの記録内容をカード表面に表示する場合に、CD (Cash Dispenser) カード、クレジットカード等の磁気カードやICカードのように、例えば塩

化ビニル製の2層のコアを有し、かつオーバーシート層を有するカードにおいては、上記パンチ穴方式や裏面印字方式を用いることができず、また、上記ビジュアルカードや表示方式カードのような方式では、カードの製造コストが非常に高くなってしまうという問題がある。

【0005】

本考案は上記のような問題点に鑑みてなされたものであって、安価でしかも簡単な方法により、情報記録用カードの記録内容の一部をカード表面に表示することができるようすることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案においては、カードの表面にシールを貼り付けるための凹部を設けるよう構成しており、この凹部に数字やアルファベットを印字したシールを貼り付けるようにすることで上記課題を達成したものである。

【0007】

【作用】

カードの表面に設けられた凹部に、例えば利用残高の情報が印字等で表示されたシールを貼り付けるようにし、このシールを適宜貼り替えることで、利用者は容易にカードの記録内容を視覚により確認することができる。また、このようにシール貼り付け部は凹部とされていることによって、このカードをリーダー／ライター等の処理機で処理した場合に、シールが処理機のローラー部などによって剥がされることがない。

【0008】

【実施例】

以下、実施例を図面に基づいて説明する。

【0009】

図1は本考案の一実施例に係る情報記録用カードをシールを貼付した状態で示す平面図、図2は図1のA-A線断面図、図3は同カードに貼付するシールの平面図である。

【0010】

この実施例のカード1は、金融機関用のCDカードに適用したものであって、基材として2層構成の塩化ビニル製コア2、2が用いられ、このコア2、2の両面がそれぞれオーバーシート3、3により覆われたものとされている。上記コア2、2の中にはICチップ4が組み込まれている。また、このICチップ4組み込み位置の上方にはカード1の長手方向に磁気ストライプ5が設けられ、また、カード1の下部位置にはエンボス部(図示せず)が設けられている。上記ICチップ4は、CPU(中央処理装置)とメモリを1チップ化したもので、左右にそれぞれ複数の外部接続端子を備えている。

【0011】

上記カード1の磁気ストライプ5の下方であってICチップ4の側方には、エンボス部にかかるないように、横長の長方形形状の凹部6が形成されている。この凹部6には、図3に示すようなシール7が貼り付けられる。そのため、この凹部6の大きさはシール7より若干大きめとされ、また、その深さはシール7の厚さと略同等(数ミクロン程度)となるように設定される。

【0012】

上記シール7の表面には、CD(Cash Dispenser)機に付設された印字機により、利用日および利用残高(預金額)の数字等が印字され、また、裏面には、端縁に設けられた所定幅の非粘着部7aを除く略全面(図3の一点鎖線より右方)に糊が塗布される。

【0013】

以上のように構成されていることによって、カード利用者が、CD機にカード1を挿入して現金の引き出しもしくは預け入れを行うと、印字機から利用残高等の印字されたシール7が排出される。このシール7は利用者がカード1の凹部6に貼り付ける。それにより、カード1は表示機能をもつたものとなり、後日、目視するだけで利用残高を確認することができる。表示内容は、次にCD機を利用する毎にカード1上の古いシール7を非粘着部7aの部分でつまんで剥がし、新しいシール7に貼り替えるようにして更新する。

【0014】

なお、上記実施例では、情報を印字したシールを1回毎に貼り替える場合を説

明したが、図4に示すように、1枚の大きめのシール8に複数の印字領域8a, 8b, 8c, 8d……を設けておき、利用する毎にこれらの印字領域8a, 8b, 8c, 8d……に順次印字していくようにすることもできる。このようにすると、シールを各利用時毎に貼り替える必要がない。

【0015】

なお、上記実施例では、シールの裏面の端縁に非粘着部を設けたものを説明したが、シール裏面には全面に糊を塗布するようにし、その代わり、カード上のシール貼着部である凹部の一部に段下げ部等を形成するようにしてもよい。

【0016】

また、上記実施例の場合、利用者自身がシールの貼り替えを行う場合について説明したが、シールの貼り替えは機械側で自動的に行うようにすることもできる。

【0017】

また、上記実施例では、金融機関用のCDカードに適用したものについて述べたが、本考案は、その他、いろいろな形のカードに適用することができ、その場合、シール表面への印字内容を利用形態に応じたものとする。例えばプリペイドカードの場合に、プリペイドの残高を印字するようにできるし、また、ショッピングセンター等で使用するカードの場合に、一定の利用金額毎に与えているポイントの累計を印字することができ、また、宿泊施設等において部屋の予約を行うカードの場合には、予約した部屋の番号や時間等の情報を印字することができる。

【0018】

【考案の効果】

本考案は以上のように構成されているので、安価でしかも簡単な方法で、情報記録用カードの記録内容の一部をカード表面に表示することができ、利用者はその記録内容を視覚により確認することができる。